岩手医科大学報

Iwate Medical University News

2012・6　vol.429

●発行者―理事長・学長　小川 彰　●題字―大堀 勉

名誉理事長・名誉学長 大堀 勉殿（享年87）におかれましては、平成24年６月７日（木）午後５時43分、本学附属病院において逝去されました。

ここに生前の多大なるご功績を称え、哀悼の誠を捧げ、謹んでご冥福をお祈りいたします。

（関連記事：Ｐ16）

おもな内容

●― 巻頭言　附属病院長就任ご挨拶　附属病院長　酒井　明夫

●― 特　集　岩手県こころのケアセンターについて
岩手県こころのケアセンター　副センター長、医学部災害・地域精神医学講座　特命教授　大塚　耕太郎

●― トピックス　薬学部白衣授与式が行われました

●― フリーページ　すこやかスポット医学講座 №38
遺伝カウンセリングの新たな窓口として－臨床遺伝科のご紹介－
臨床遺伝科　診療部長　福島　明宗

巻　頭　言

附属病院長就任ご挨拶

附属病院長　酒　井　明　夫

岩手医科大学の皆様、関係者の皆様におかれましては常日頃からご教示、ご支援をいただき、本当にありがとうございます。

このたび、平成24年４月１日付けで岩手医科大学附属病院長を拝命いたしました。浅学非才の身ではありますが、皆様にご指導いただきながら重責を果たすべく努力していきたいと存じます。

今日の医療はますます進歩・発展の度合いを深め、治療技術や施設設備は複雑さを増しています。高度な医療と専門性で特徴づけられる当院ももちろん例外ではありません。他方ではインフォームドコンセントを中心とする医療パラダイムも浸透し、医療従事者－患者関係も段階的な理解のプロセスとさまざまな手続きを要する重層的なものとなりました。必然的に医療現場は、つねに緊張を強いられる厳しい環境になってきたと思います。もちろん、医療の場はもともと最大限の注意を払うべき場なのですが、近年はそれがどんどんエスカレートして要求される水準も高まっているように見えます。

ここで心配になるのが医療に携わるスタッフの健康です。不規則勤務に加えて注意や確認の必要な過程が増えてくれば、心身の疲労が蓄積していくことは想像に難くありません。しかしながら、医療は病める人々を救うものである以上、日進月歩の医科学と医学倫理指針を臨床に反映させることを止めるわけにはいきません。この両者を勘案した方針が今求められています。医療の最前線で働く人々が安心して職務を遂行できるようなシステム・環境作りを心がけていきたいと思います。

今後、病院の機能を最大限に発揮し、安全と安心に裏付けられた医療を実践していくために、是非皆様のお力をお貸しいただければと存じます。どうかよろしくお願い申し上げます。簡単ではございますが、以上、就任のご挨拶とさせていただきます。

ドクターヘリの本格運航を開始しました

本学は、３月30日㈮の附属病院ドクターヘリ基地ヘリポート完成後、関係機関の協力を得ておよそ１ヶ月余りドクターヘリの運航訓練を重ねてまいりましたが、５月８日㈫より本格運航を開始することとなりました。

同日午前９時30分からは、同ヘリポートにおいて、岩手県、矢巾町、関係機関、大学関係者など約70名の出席のもと、本格運航開始記念セレモニーが挙行されました。セレモニーでは、達増拓也岩手県知事と小川彰理事長の挨拶、関係者によるテープカットに続いて、医学部救急医学講座講師の山田裕彦フライトドクターから力強い決意表明があり、関係者が見守る中、フライトドクターとフライトナースが搭乗し、ドクターヘリのテストフライトが行われました。

ドクターヘリは、四国四県に匹敵する広大な岩手県全域をほぼ30分でカバーできるため、県民の生命と健康を守る希望の翼として、救命率の向上と後遺症の軽減に大きな期待が寄せられています。

なお、本格運航開始後１ヶ月間（５月８日～６月７日）で、延べ26回の出動がありました。

テープカットの様子
（左から：川村光朗 矢巾町長、遠藤重厚 高度救命救急センター長、小川彰 理事長、達増拓也 岩手県知事、佐々木博 岩手県議会議長、谷藤裕明 岩手県市長会長、稲葉暉 岩手県町村会長）

フライトドクターによる決意表明
（救急医学講座　山田裕彦 講師）

省エネ推進委員会だより　～「夏の節電行動計画」について～

国内の原子力発電所が全て停止したことなどによって、今夏の電力需給状況は未だ不透明で、電力不足による計画停電の実施や電力使用制限令発令の可能性は否めません。

電力不足を回避し計画停電等を未実施とするためには、需要家が積極的に節電に協力していくことが必要です。

このことから、本学では「夏の節電行動計画」を実践することとしましたので、ご協力をお願いします。

期間中は、実践項目の遵守状況や学内のエネルギー使用状況の把握のために、省エネ推進委員による定期的な省エネパトロールを実施します。

「夏の節電行動計画」の実践項目　（期間：６月１日～８月31日迄）

その１　冷房の設定温度は28℃
※病室・診療室・実験室・研究室は、支障のない範囲で設定緩和に努める。

その２　不要照明の消灯、休憩時間における照明は消灯する。

その３　不要な医療・研究・事務用機器は電源を切る。

その４　クールビズ活動の励行　　※クールビズ活動は９月末迄

その５　気温上昇に伴いエネルギー消費増加が見込まれる場合は、館内放送や巡視点検を実施し、節電を要請する。

特集

岩手県こころのケアセンターについて

岩手県こころのケアセンター　副センター長
医学部災害・地域精神医学講座　特命教授
大　塚　耕太郎

災害発生からこころのケアチーム派遣まで

平成23年３月11日に発生した東北地方太平洋地震とそれに伴う巨大津波により、岩手県内の多くの人が家族や親しい人を喪い、さらに家財や職場を失う等多くの困難とそれに伴うストレスに曝されています。特に、岩手県沿岸地域の被害は甚大であり、被災者に対するこころのケアが重要な課題となっています。岩手医科大学では３月15日より３月22日まで、岩手医科大学における災害派遣医療チームにメンタルヘルス関連各科（精神科、心療内科、睡眠医療科）が加わり、岩手県沿岸での災害医療としてのこころのケアを開始しました。その後、他県の支援チームの受け入れについても岩手県との検討で、岩手県に一本化して、現地との調整を図り、岩手医科大学は３月24日より岩手県北沿岸の久慈地域において岩手県立久慈病院、北リアス病院、日本医科大学、九州大学、大分大学、順天堂大学、澤病院の協力を得て、該当４市町村、久慈保健所、久慈医師会と連携し、活動を開始しました。当初、ケアチームの活動は避難所巡回、ハイリスク者の個別訪問、遺族支援、従事者ケアを中心として開始しました。災害発生から３月末日までに139日にわたり総派遣者数延べ727名（医師202名、保健師・心理士222名、精神保健福祉士110名、看護師96名、傾聴ボランティア97名）が参加し、対応延べ件数は2,095件でした。

岩手県こころのケアセンターの活動内容

県内被災地へこころのケアチームは岩手医科大学も含めて延べ30チームが派遣され、活動を行い、岩手県全体でも延べ約11,000件、6,000名へ対応を行いました。そして、中長期的なこころのケアを行うために、岩手県こころのケアセンター（中央センター）が岩手県からの委託により岩手医科大学内に平成24年２月15日設置されることになりました。東北３県でこころのケアセンターが開所されましたが、大学にケアセンターが設置されたのは岩手県だけであり、こころのケアが学術面と実践面にわたり相互補完的に活動できることが期待されます。開所式では、宮舘寿喜前副知事と小川彰学長（現理事長・学長）によりセンターの看板が設置され（右写真）、固い握手が交わされました。

中央センターの開所式

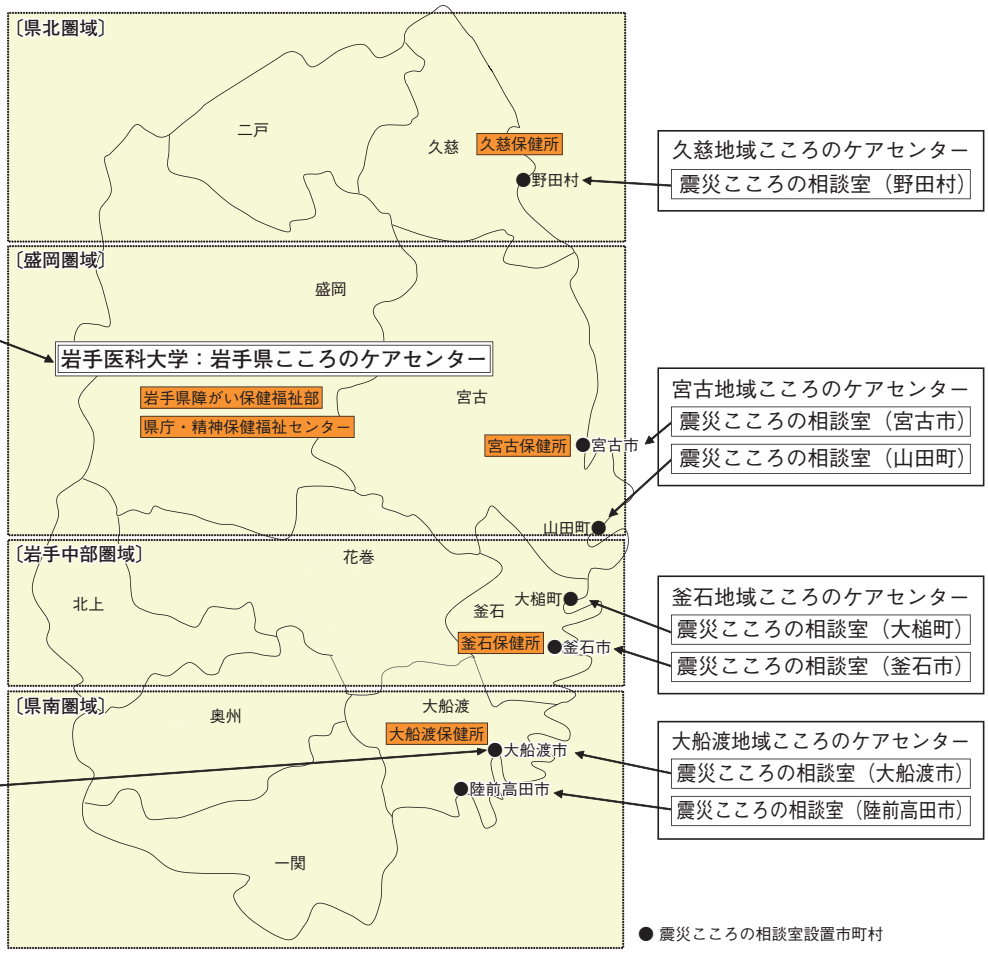
釜石地域の開所式

本センターは、本学医学部神経精神科学講座酒井明夫教授（現病院長）がセンター長を務められます。中央センターの業務内容としては、こころのケアの総合的なコーディネート、人材育成・研修、普及啓発、支援者に対する支援、被災者に対する支援、災害時こころのケアに関する調査・分析・研究となります。また、久慈、宮古、釜石、大船渡の各地区には地域センターが同年３月28日に開所され（Ｐ５　体制図参照）、釜石では沿岸広域振興局の中村一郎局長と小林誠一郎前岩手医科大学附属病院長（現医学部長）により看板が設置されました（左写真）。地域センターの業務内容としては、被災者に対する相談・支援活動、支援者に対する支援、地域内連携促進のコーディネート、普及啓発、人材育成・研修、地域支援であり、沿岸７つの相談室と仮設住宅への訪問、地域の保健活動への協力等を実践していくことになります。

岩手県こころのケア対策 支援体制図

民主党議員による視察風景

大船渡地域のミーティング風景



こころのケアセンターでは酒井明夫センター長のもと中央センターと４つの地域センターで総勢51名の職員が勤務し、保健師、看護師、臨床心理士、社会福祉士、精神保健福祉士など精神保健福祉領域の専門家がスタッフとして配置されています。本センターでは保健領域でのこころのケアが主体となった地域支援を念頭に置き、開所当時より他県のこころのケアチームの活動と同行し、引き継ぎを行い、関係機関と協議を重ねてきました。さらに、今後の中長期的なこころのケアを実施するために、各保健所や市町村などの関係機関との調整を行い、精神保健相談レベルの震災ストレス相談室、市町村等と連携した地域住民への訪問活動、地域保健事業への協力などを主体にしながら活動を進めていく予定です。

中央センターのスタッフ

研修の様子

現在も連日、中央センターでは岩手県保健福祉部障がい保健福祉課２名の派遣を受けて、地域センターと連携して業務を遂行しています。研修も行いながら（左写真）、被災後も災害復興に困難を抱えた住民がメンタルヘルスの不調をきたすことがこれまでも報告されており、長期的な支援を実践していくために、地域に溶け込み、地域に信頼されるこころのケアセンターとなるよう運営していきたいと思います。そして、岩手医科大学がこれまで果たしてきた地域医療や地域保健として実践してきた精神を大切にして、岩手県と協力しながら被災地域住民や被災地関連機関への支援を継続していきたいと思います。

平成24年度　予　算

本法人の平成24年度予算が、３月26日に開催された理事会及び評議員会において承認されましたので、以下予算の概要についてお知らせします。

なお、予算の詳細について説明・確認を希望される方は、財務部経理課に照会願います。

予算編成にあたって

『誠の人間を育成する』という本学の目的に鑑み、教育・研究・医療のさらなる活性化と質的向上を目指します。そのためには財政面において効率的な収支の均衡を図り、資金確保に努め財政基盤の強化に取組んでいかなければなりません。

大学経営を安定・維持するためには入学定員充足が不可欠であり、医学部・歯学部・薬学部ともその特性を活かし、また、本学の特色である三学部連携による教育・研究を推進し、総合医療人の育成に向けた魅力ある大学創りを実践することにより、学生を確保していかなければなりません。特に、全国的に志願者が減少している歯学部・薬学部については、本学独自の施策を検討し実施しなければなりません。

事業計画については、平成24年度には災害時地域医療支援教育センターと図書及び情報関連部門の統合による将来的なメディアセンター機能を有するマルチメディア教育研究棟の建設があり、多額の事業資金を支出する年度となっています。また、矢巾キャンパスへの病院移転整備及び内丸メディカルセンター整備などに係る基本設計を推進しなければなりません。

財源確保については、病院移転整備に多額の資金を必要とするため、事業資金計画に基づいた資金の確保に努めなければなりません。特に、帰属収入の66.9%を占める医療収入については、患者の確保、増設となった手術室の効率的運用及びPET・リニアック先端医療センターの積極的活用などにより大学附属病院全体の増収を図らなければなりません。

予算編成にあたっては、理事会が決定した諸施策を実行し、教育・研究・医療活動が円滑に遂行できるよう配慮しつつ、自主財源の拡大を図ると共に、経常的経費の節減に努める圧縮した厳しい予算編成としました。

主な予算項目

平成24年度消費収支予算の主な項目について説明します。

収入予算は、学生生徒等納付金80億6,341万円（帰属収入に占める割合17.4%）、医療収入309億9,665万円（同66.9%）、補助金36億6,656万円（同7.9%）を計上しました。これら３項目で帰属収入の92.2%を占めております。その他の収入は36億2,018万円（同7.8%）を計上し、基本金50億円を組み入れたことにより、消費収入予算総額は413億4,680万円となりました。

支出予算では、人件費198億8,803万円（消費支出に占める割合45.9%）、医療経費（医薬品費、医療材料費、給食材料費）117億7,948万円（同27.2%）、その他の諸経費等116億7,929万円（同26.9%）を計上し、消費支出予算総額は433億4,680万円となりました。

消費収入から消費支出を差し引いた消費収支差額は、△20億円であり、本年度は支出超過（赤字）の予算編成となりました。

本学の財政は、帰属収入の約66.9%を医療収入に委ねており、また支出においては、人件費（45.9%）と医療経費（27.2%）で約73.1%を占めております。財政基盤の確立には引続き医療収入の増収と医療経費の適正･効率化を念頭に入れ、教職員一人ひとりが経費全般の節減に努めていかなければなりません。

１．学生生徒等納付金

学生生徒等納付金は入学金、授業料、実験実習費、教育充実費、施設整備費からなっており、医学部40億1,944万円、歯学部20億4,337万円、薬学部18億5,395万円、医療専門学校１億4,665万円、合計80億6,341万円を計上しました。

２．医療収入

附属病院（医科）、歯科医療センター、循環器医療センター、花巻温泉病院、PET・リニアック先端医療センターを合計した医療収入予算は、入院収入234億4,757万円、外来収入73億407万円、その他の医療収入２億4,501万円、合計309億9,665万円を計上しました。

3．補助金

経常費補助金は19億6,560万円、臨床研修費補助金等その他の国庫補助金は６億8,097万円を計上しています。また、地方公共団体補助金は、高度救命救急センター運営費補助金、病院群輪番制運営費補助金等を合わせて10億1,459万円を計上しており、その他を含め補助金は合計36億6,656万円を計上しました。

4．人件費

給与・諸手当・所定福利費等の人件費は定期昇給分1.99%を見込んで178億4,907万円計上し、また退職金関係では退職金と退職給与引当金繰入額及び退職給与引当金特別繰入額に20億810万円等を計上して、合計198億8,803万円となりました。

5．医療経費

附属病院合計の医療経費について、医薬品費は、対医療収入割合19.6 %の60億6,974万円、医療材料費は同17.6%の54億6,579万円、給食材料費は同0.8%の２億4,395万円を計上したことにより、医療経費合計は117億7,948万円（経費率38.0%）の計上となりました。

6．研究費

医学部の講座研究費は、基本額を調整し配分額の変更を行いました。歯学部・薬学部・共通教育センターの講座研究費及び個人研究費である特別研究費、学会旅費の予算は前年度と同額としました。

施設関係等の予算は次のとおりです。

1．施設関係

建物・建物附属設備等では、マルチメディア教育研究棟建設工事に22億3,000万円、その他工事に１億7,000万円、合計24億円を計上しました。

2．設備関係

教育、研究、診療、管理用機器備品などの購入予算として、12億1,820万円を計上しました。

平成24年度　消費収支予算書

（単位：千円）

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
学生生徒等納付金	8,063,410	人件費	19,888,030
手数料	189,330	医療経費	11,779,480
医療収入	30,996,650	消耗品費	988,100
寄付金	1,930,000	光熱水費	1,082,810
補助金	3,666,560	旅費	234,700
資産運用収入	173,290	修繕費	560,900
事業収入	651,400	業務委託費	2,925,050
雑収入	676,160	減価償却額	3,344,510
帰属収入合計	46,346,800	その他の諸経費等	2,343,220
基本金組入額合計	△ 5,000,000	予備費	200,000
消費収入の部合計	41,346,800	消費支出の部合計	43,346,800
当年度消費支出超過額	2,000,000		

平成24年度　資金収支予算書

（単位：千円）

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
学生生徒等納付金収入	8,063,410	人件費支出	19,228,010
手数料収入	189,330	諸経費支出	19,692,640
医療収入	30,996,650	施設関係支出	2,400,000
寄付金収入	1,830,000	設備関係支出	1,218,200
補助金収入	3,666,560	資産運用支出	4,503,000
資産運用収入	173,290	その他の支出	5,494,470
事業収入	651,400	予備費	500,000
雑収入	676,160	資金支出調整勘定	△ 4,698,170
前受金収入	1,365,270	次年度繰越支払資金	12,634,900
その他の収入	8,833,580		
資金収入調整勘定	△ 7,472,600		
前年度繰越支払資金	12,000,000		
収入の部合計	60,973,050	支出の部合計	60,973,050

Topics

薬学部の学生を対象とした企業研究セミナーが行われました

５月10日㈭、矢巾キャンパス東研究棟にて、医療機関への就職を目指す薬学部の学生を対象とした「企業研究セミナー」が開催されました。

セミナーでは、県内外の医療機関など35の事業所ブースが設けられ、リクルートスーツに身を固めた約170名の薬学部学５・６年生が各ブースを訪問しました。

参加した学生は、人事担当者の方々へ積極的に質問を行うなど、将来の仕事に対する理解を深めている様子でした。

薬学部白衣授与式が行われました

東北地区の病院・薬局における実務実習が始まる薬学部５年生を対象にした「薬学部白衣授与式」が、５月10日㈭矢巾キャンパス大堀記念講堂で行われました。

授与式では、二井薬学部長と高橋実務実習部会長より、平成23年度の薬学共用試験において合格を果たしたことへの祝辞と、新年度から始まる実務実習にあたっての激励のことばがありました。

ご父兄や教員が見守る中、二井薬学部長、前田教務委員長、高橋実務実習部会長から学生へ白衣と名札が授与され、５年生を代表して大森紀和さんが宣誓を行いました。

ふれあい看護体験が行われました

５月16日㈬、本学附属病院にて「ふれあい看護体験」が行われ、県内の高校生合わせて20名が参加しました。この行事はナイチンゲールの誕生日である５月12日の「看護の日」にちなんで行われるもので、平成４年から毎年実施しています。参加した高校生は、ユニホームに着替えた後、酒井病院長や及川看護部長から挨拶を受けました。その後、それぞれの体験場所に移動し、患者さんの搬送や誘導、清潔面の援助、車椅子での散歩などを体験し、患者さんとのコミュニケーションを深めていました。また、体験終了後には参加者同士の意見交換会が行われ、参加者へ修了証が手渡されました。

総合安全対策講習会が行われました

今年度の総合安全対策講習会が、５月22日㈫から14回（録画映像による開催含む）にわたって本学講堂にて行われ、合わせて約2,100名が参加しました。講習会では、院内における総合的な医療安全対策をテーマに、学内講師による講演が行われました。また、５月22日の本開催では、平成23年度医療安全表彰者１名・３部署と院内感染対策功労部署２部署に対し、佐藤医療安全管理部長から表彰状が授与されました。

表 彰 の 栄 誉

医学部泌尿器科学講座　小原 航 講師、高田 亮 講師が 第100回日本泌尿器科学会総会において表彰を受けました

医学部泌尿器科学講座の小原 航講師と高田 亮講師は、本年４月に横浜で開催された第100回日本泌尿器科学会総会において表彰を受けました。本総会は、全国から約5,000名が参加した国内でも最大規模の学会であり、この度の受賞は大変栄誉のあるものとなっています。

以下に、受賞内容をご紹介いたします。

小原 航 講師　－第100回日本泌尿器科学会総会賞を受賞－

小原 航講師は、「筋層非浸潤性膀胱癌に対する術後再発予防を目的としたペプチドワクチン療法（多施設共同第２相臨床研究）」という発表で第100回日本泌尿器科学会総会賞を受賞しました。本賞は総会の全発表のなかで、特に優れた内容に対して授与されるものです。

ワクチンを調製いただいている薬剤部の先生方と（写真中央：小原講師）

本研究は、東京大学医科学研究所との共同研究により新規開発したがんペプチドを用いて、全国13施設の医療機関および患者さんの協力を得て行われた前向き研究において、ペプチドワクチンと BCG 膀胱内注入療法による併用療法が、膀胱癌の術後再発率を低下させる結果を示しました。なお、本ペプチドワクチンは製薬企業へとライセンスアウトされ、企業主導開発治験が日本を含めたアジアで行われております。今回の成果は、本邦発のがんペプチドワクチン療法の創薬に向けて、着実な前進を示したものと考えられます。

高田 亮 講師　－第19回日本泌尿器科学会学会賞を受賞－

病棟スタッフの皆さんと（写真中央：高田講師）

高田 亮講師は、論文「日本人の前立腺癌発症に関連する新たな５つの遺伝領域をゲノムワイド関連解析によって同定（Nature genetics 42（9):751-754, 2010）」により、第19回日本泌尿器科学会学会賞（基礎研究部門）を受賞しました。本賞は１年間に発表された論文のうち、特に優れた内容に対して授与されるものです。

この論文は、ゲノムワイド関連研究によって日本人の前立腺癌発症に関連する遺伝子多型（SNP）領域を複数同定したという内容です。今後、これらの SNP 情報を用いることで前立腺癌発症リスクを予測することが可能となり、より適切な前立腺癌スクリーニングの実現が期待されます。

― 大学報原稿募集 ―

岩手医科大学報は、教職員皆様のコミュニケーションの場として発行を重ねていますが、さらなる教職員同士の“活発な意見交換の場”として原稿を募集しています。

岩手医科大学に対する意見や提言、日々の業務で感じること、随想、作品（写真、俳句、絵画など）、サークル紹介、学報への感想など、様々な内容をお寄せください。（原稿字数　500字～1,000字程度）

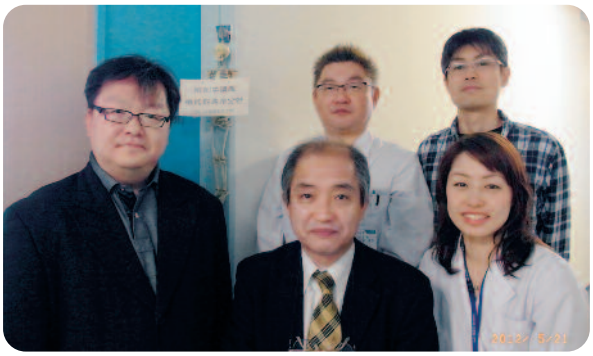
また、特集してほしいテーマや、各コーナー（「表彰の栄誉」「トピックス」「教職員レター」など）への掲載依頼などもお待ちしています。事務局までご連絡ください。

連絡先　大学報事務局（企画部企画調整課）
内線7023　kikaku@j.iwate-med.ac.jp

シリーズ 職場めぐり No.74

解剖学講座（機能形態学分野）

機能形態学分野（旧口腔解剖学分野）はスタッフ５人という少人数で日々の教育・研究等に忙しい毎日を送っています。スタッフ全員が良くも悪くも個性に溢れ、毎日にぎやかに明るく、そして堅実に日々の仕事を行っています。解剖学は、教育面で本当の意味での一番の基礎になるため、３年生臨床解剖実習を含め、歯学部１学年から６学年まで全ての学年で歯および頭頸部の構造機能を中心に授業を担当しています。また、研究面では教員それぞれがテーマを持ち（三次元再構築法による頭頸部領域のリンパ管構築、破骨細胞の解析、実験動物スンクスを利用しての研究 etc）、教育の合間にコツコツ地道に、そして確実に進めています。特に口腔領域のリンパ管構築を形態学的に調べ、リンパ管を薬剤投与経路としての投与方法を考案しているところです。医歯薬連携で臨床にも積極的に参加できる解剖学を目指しています。興味のある方はいつでも医局にお越しください。



（助教　安藤　禎紀）

看護部（中６階）

中６階病棟は神経内科・老年科と形成外科の混合病棟です。疾患は神経内科・老年科では脳血管障害、神経難病や認知症などが多く、形成外科では唇顎口蓋裂や母斑等の先天性疾患や漏斗胸、切断指の接着など多岐に渡り、緊急入院も多くあります。年齢層は乳幼児から高齢者までと幅広く、状況に応じた柔軟な対応が求められます。患者さん・御家族は多くの肉体的・精神的苦痛を抱えて入院しています。２科ともに転倒・転落のリスクの高い患者さんが多く、患者さんが安全で安心な入院生活が送れるように、個別性に配慮しながら、訴えの傾聴と共感を基本に患者さんとの信頼関係を築いています。また、入院中から医師やソーシャルワーカー、地域のケアマネージャーの方々と連携を図りながら、退院後の生活を見据えた在宅に向けての支援体制を整えています。多忙な毎日ですが、患者様の笑顔を支えに頑張っています。

（主任看護師　中田　紀恵）

医療専門学校歯科衛生学科　千葉　恵 さんが 源義経公東下り行列で北の方役を演じました

医療専門学校歯科衛生学科３年生の千葉恵さんは、５月３日㈭に平泉町で行われた春の藤原まつりのメイン行事「源義経公東下り行列」で北の方役を演じました。

千葉さんは、義経役を演じた俳優の溝端淳平さん、藤原秀衡役を演じた達増拓也岩手県知事などの出演者とともに平安の歴史舞台を演じ、国内外から集まった18万５千人の観光客の声援を受け約３km にわたる道程を練り歩きました。

毛越寺を出発し中尊寺金色堂へ向かう一行

華やかな衣装に身を包み
北の方役を演じる千葉さん

岩手医科大学募金状況報告

● 総合移転整備事業募金　～ 皆様のご厚志により支えられています ～

平成21年６月から始まりました岩手医科大学総合移転整備事業募金に対し、格別のご理解とご支援を賜りました皆様方お一人おひとりに、厚く御礼を申し上げます。誠にありがとうございました。

皆様のご厚志は、大学発展の大きな原動力となるものであり、本事業の早期達成のため有効に活用させていただいております。

今後とも関係各方面からの格別なるご協力・ご支援を賜わりますよう衷心よりお願い申し上げます。

今回は15回目の御芳名紹介です。（平成24年３月１日～平成24年４月30日）

※御芳名及び寄付金額は、掲載を希望されない方については掲載しておりません。

会社・法人等

＜10,000,000円＞
医療法人　仁泉会（青森県）
＜2,000,000円＞
協栄テックス株式会社（岩手県）
＜1,000,000円＞
株式会社　岡村製作所（神奈川県）
＜御芳名のみ記載＞
丸木医科器械㈱（宮城県）
（受付順、敬称略）

個人等

＜2,000,000円＞
小　川　　彰（役員）
＜1,000,000円＞
藤　森　正　記（医30）
＜100,000円＞
冨　山　有　一（医30）
＜御芳名のみ記載＞
瀬　川　　清（歯13）
（受付順、敬称略）

これまでの募金累計額

区　分	申込件数	募金金額(円)
圭　陵　会	443	288,072,000
在学生父母	184	105,640,000
役員・名誉教授	39	69,810,000
教　職　員	108	15,645,000
在　学　生	1	100,000
一　般	103	308,782,922
合　計	878	788,049,922

（平成24年４月30日現在）

外科学講座が内視鏡外科手術に関する本を出版しました

■発刊によせて（編集者からのメッセージ）

わが国では、1990年に腹腔鏡下胆嚢摘出術が開始され、その後、内視鏡外科手術は急速に普及していきました。内視鏡の拡大視により、教科書で習っていた微細な解剖が確認できるようになり、精度の高い内視鏡外科手術が多くの領域で標準手術となりました。外科学講座は、各臓器で内視鏡外科手術を積極的に取り入れてきましたが、この度、教室員の総力を結集し、「ステップアップ 内視鏡外科手術」を刊行いたしました。本書では、綺麗でわかりやすい写真を中心に、実践手技のコツと注意点について簡潔に解説し、手術手技を実際の動画として DVD に収めました。このような特色を持つ本書が、初学者はもちろんのこと、日本内視鏡外科学会の技術認定医や日本消化器外科学会の専門医を目指している外科医に役立つことを願っています。

監修：若林　剛
編集：佐々木　章

■書　評（大分大学　学長　北野　正剛）

この度、岩手医科大学の若林　剛 教授の監修のもと、『ステップアップ 内視鏡外科手術』と題する手術書が医学書院から刊行された。内視鏡外科手術を幅広く、数多く手掛けてきた岩手医科大学外科学講座の世界をリードする腕利きの外科医たちの総力結集の著書といえる。

本書の最大の特色は、解説されている手術手技を実際の動画として DVD に収め本書の巻末に付されている点だと思われる。生の映像は、どんな素晴らしい成書で勉強するよりもはるかに情報が多いからである。日本内視鏡外科学会の運営に携わるものの一人として、本書を通じて、一人でも多くの外科医が、安全で質の高い基本手技をさらに習得し、わが国全体の内視鏡外科手術の発展に寄与することを期待したい。

新任教授の紹介

掲載項目は先生に回答いただいたものです。なお、②のタイトルが英文の場合は和訳して掲載しています。

役　　職 医学部救急医学講座

氏　　名 井上 義博（いのうえ　よしひろ）

生年月日　昭和31年４月５日
岩手県生まれ

①研究テーマ

・敗血症性多臓器不全の病態解析
・医学生、研修医を対象とした内因性救急初期診療教育
・消化器緊急内視鏡
・急性腹症

②主な著書論文

・津波肺（J Anesth26：246-249, 2012）
・東北版「食道胃静脈瘤治療の標準化」作成の試み（日門脈圧亢進症会誌16：119-126, 2010）
・腹部内蔵動脈破裂症例の IVR 治療（日腹部救急医会誌25：825-828, 2005）

③趣味・特技

・スポーツ全般、旅行

④教職員への自己PR

この度、４月１日付で救急医学講座の講座内教授を拝命致しました。５月からドクターヘリの運航が開始されますます多忙となりますが、遠藤教授の指導の下で救急医学講座及び高度救命救急センターのスタッフと共に、岩手の救急医療を担っていきたいと考えております。今後とも御指導お願い申し上げます。

⑤経　歴

昭和57年	岩手医科大学医学部卒業
	岩手医科大学医学部第1内科入局
昭和61年	岩手医科大学大学院医学研究科卒業
昭和62年	岩手医科大学高次救急センター助手
平成２年	同　講師
平成10年	同　助教授
平成13年	岩手医科大学医学部救急医学講座助教授
	岩手県高度救命救急センターに名称変更
平成19年	岩手医科大学医学部救急医学講座准教授
平成24年４月	現職

所 属 名　統合基礎講座　解剖学講座
機能形態学分野

氏　　名 藤村　朗（ふじむら　あきら）

生年月日　昭和29年３月26日
北海道生まれ

①研究テーマ

・口腔解剖学・解剖学（脈管系）、特に全身のリンパ管構築（顎顔面を中心に）

②主な著書論文

・口腔粘膜下リンパ管構築　－薬剤投与経路としての有用性－（Lymphology 44：146-154, 2012）
・末梢神経内の微小循環　－眼窩下神経－（MVRC 4：2-11, 2011）
・口腔領域のリンパ管構築総説（MRT 56：60-65, 2002）

③趣味・特技

・釣り

④教職員への自己PR

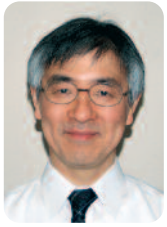
昭和54年に歯学部口腔解剖学第一講座に入局以来、肉眼解剖学を中心に教育・研究を行ってまいりました。時間的には８割以上を教育に向けてまいりました。研究の世界とは異なり、地味ではありますが、岩手医科大学のモットーである「誠の人間」作りをこれからも続けてまいりたいと考えております。併せて、医歯薬連携研究の推進には積極的に参加させていただきたいと考えております。今後ともよろしくお願い申し上げます。

⑤経　歴

昭和54年	岩手医科大学歯学部卒業
	岩手医科大学歯学部口腔解剖学第一講座研究副手
昭和55年	同　副手
昭和59年	同　助手
昭和62年	同　講師
平成１年	アメリカ国立衛生研究所（NIH-NIDR）留学
平成４年	岩手医科大学歯学部口腔解剖学第一講座助教授
平成22年	岩手医科大学解剖学講座機能形態学分野嘱託教授
平成24年４月	現職

新任教授の紹介

掲載項目は先生に回答いただいたものです。なお、②のタイトルが英文の場合は和訳して掲載しています。



役　　職 歯学部　歯科保存学講座
歯周療法学分野

氏　　名 八重柏 隆（やえがし　たかし）

生年月日 昭和34年4月23日
岩手県生まれ

①研究テーマ

・歯周病学、歯周治療学（歯周組織の再生他）

②主な著書論文

・シクロスポリンAを投与されたサルコイドーシス患者の歯肉増殖におけるカテプシン B, D, L の発現（Clin Lab. 57：535-541, 2011）
・培養歯髄細胞の結節形成現象とアポトーシスの関連性について（日歯保誌 51：99-104, 2008）
・接着分子の発現は接合上皮と他の歯肉上皮では異なる（J. Periodont. Res. 41：322-328, 2006）

③趣味・特技

・水泳、映画鑑賞

④教職員への自己PR

歯周病は成人の大多数が罹患しているにもかかわらず、痛み等の自覚症状がないままに進行するので、放置されがちな生活習慣病です。また歯周病は全身に深く関わる感染症で、糖尿病、循環器疾患、誤嚥性肺炎等と関係することが知られています。今後、医学・歯学・薬学領域はもとより、多くの先生方と密接に連携し治療・研究することが、これから一層求められ多くなると思います。歯周病の臨床・教育・研究のさらなる充実を図り、本学の発展にベストを尽くす所存です。どうぞ今後とも何卒、ご指導の程、よろしくお願いいたします。

⑤経　歴

昭和60年	岩手医科大学歯学部卒業
平成元年	岩手医科大学歯学部・大学院修了 学位（歯学博士）取得 歯科保存学第二講座助手
平成10年	同嘱託講師
平成15年	同講師
平成20年	同准教授
平成24年４月	現職

所 属 名 歯学部
補綴・インプラント学講座

氏　　名 近藤 尚知（こんどう　ひさとも）

生年月日 昭和41年５月25日
愛知県生まれ

①研究テーマ

・再生医学、デンタルインプラント、歯科補綴学

②主な著書論文

・CyclicAMP/PKA、PLC/PKC を介する二相性細胞内シグナルの破骨細胞形成における役割（Journal of Bone and Mineral Res. 17：1667-1679 2002）
・副甲状腺ホルモン受容体は軟骨細胞の成熟を PLC シグナルを介さずに制御する（Developmental Cell 3：183-194, 2002）
・共鳴振動周波分析（Resonance frequency analysis）によるインプラントの固定状態の評価（Clinical Oral Implants Res. 19：9-14 2008）

③趣味・特技

・スポーツ観戦

④教職員への自己PR

咀嚼および嚥下は日常生活の基本であり、その機能を守るのが我々歯科医師の役割です。日本の歯科医療をとりまく現状は厳しいと言われていますが、バイオテクノロジーとインフォメーションテクノロジーの発展の上に、先進歯学を立脚することで、歯科補綴学は今後も発展し続けることが可能な夢のある学問です。当講座は、デンタルインプラント、クラウンブリッジ、有床義歯全ての欠損補綴を同時に学ぶことのできる日本で唯一の講座です。より先進的かつ高度な補綴診断学の確立とインプラント治療の優位性を生かした患者本位の治療法を発展させていきたいと考えています。さらには、本学のみならず日本の歯学部が発展していけるよう尽力していく所存でありますので、どうぞよろしくお願いいたします。

⑤経　歴

平成５年	東京医科歯科大学・歯学部　卒業
平成９年	東京医科歯科大学・大学院修了 学位（歯学博士）取得 東京医科歯科大学　歯学部附属病院医員
平成11年	ハーバード大学　マサチューセッツ総合病院　研究員
平成13年	東京医科歯科大学　インプラント・口腔再生学分野　助教
平成21年	岩手医科大学・歯学部・口腔インプラント学　准教授 歯科医療センター・口腔インプラント科診療部長（併任） スポーツ歯科外来　運営委員長（併任）
平成24年４月	現職

すこやか
スポット医学講座
No. 38

臨床遺伝科
診療部長　福島　明宗

遺伝カウンセリングの新たな窓口として
―― 臨床遺伝科のご紹介 ――

昨年７月１日、遺伝カウンセリングを中心とした診療を行う「臨床遺伝科」が開設されました。今回この場をお借りして当診療科のご紹介をさせていただきます。

現在、一般社会においては虚実織り交ぜた遺伝に関する情報がネット上をはじめ巷に溢れかえってきております。一方で遺伝的な悩みを抱えても、どこにその相談の窓口があるのかが判らず悩まれているケースもあるのではないかと思います。健康食品会社など医療の現場以外でも各種遺伝学的解析が次々と行われている一方で、遺伝カウンセリングの機会は全く無いか極めて限定されているのが現状です。また遺伝相談内容の多様化への対応、より高度で専門レベルの遺伝診療への対応、遺伝医療に関するスペシャリストの育成も重要な課題となっております。これらの状況を踏まえ、そのニーズに応えるべく当科が新設された次第です。

本診療科の担当分野は多岐にわたっているため、診療メンバーも多分野・多職種に渡っております。

診療科メンバー

これまでに産婦人科、小児科、皮膚科、耳鼻咽喉科、乳腺外科、消化器内科、神経内科、形成外科、口腔外科の各専門医に加え、助産師、看護師、薬剤師、臨床検査技師、臨床心理士、ケースワーカーの方々にも診療科メンバーに加わって頂いております。

現在当科が行っている主な診療内容は以下の通りですが、今後段階的に診療内容を充実していく予定です。

【主な診療内容】

1）出生前診断に関わる染色体検査および遺伝カウンセリング
2）家族（遺伝）性腫瘍に関わる遺伝子検査および遺伝カウンセリング
3）先天性難聴に関わる遺伝子検査および遺伝カウンセリング
4）妊娠と薬相談外来

医学研究の分野では遺伝子関連の研究テーマが主たるものになっておりますが、その一方でそれら研究の倫理的配慮に関する審査も厳格になってきております。すなわち研究成果のみならず、その研究における倫理的配慮に関しても厳しく評価されるのが当たり前の時代になってきております。研究内容によっては遺伝カウンセリングを必須とするケースも出てきております。我々臨床遺伝科では研究面での遺伝カウンセリングに関しても対応できる体制を取っておりますので、ご利用いただければ幸いです。

理事会報告

■４月定例（４月23日開催）

１．組織規程の一部改正について

⑴　学部長を補佐する副学部長職を新設

⑵　医歯薬総合研究所の教員選考の迅速化を図るため、条文を一部改正

（施行年月日　平成24年５月１日）

２．大学院薬学研究科設置認可申請について

大学院薬学研究科の設置認可申請内容及び設置に伴う関連規程の制定・改正について承認

第98回大学報編集委員会

日　　時：平成24年６月14日(木)　午後４時～午後５時

出席委員：山崎　健、影山　雄太、藤本　康之、小山　薫、佐藤　仁、下山　佑、山尾　寿子、佐々木　光政、佐々木　さき子、米澤　裕司、昆　由美子、佐々木　忠司、鈴木　尚子、武藤　千恵子、野里　三津子

編集後記

本法人の発展に多大なる貢献をされました大堀　勉先生が逝去されました。

この突然の訃報を皆様にお伝えしなければならないことは、誠に残念でなりません。

「職員相互のコミュニケーション」を重んじた先生は、岩手医科大学報編集委員会を立ち上げ自ら委員長を務めるなど、本紙の運営に情熱を注がれました。本紙を皆様に毎月お届けできるのも、先生のご尽力の賜物であることは言うまでもありません。

職員一同、先生が残されたご功績を大いに称え、心よりご冥福をお祈り申し上げます。　（編集委員　佐々木　忠司）

岩手医科大学報　第429号
発行年月日　平成24年６月30日
編　集　岩手医科大学報編集委員会
事務局　企画部　企画調整課
盛岡市内丸19 - 1
TEL 019-651-5111（内線7023）
FAX 019-624-1231
E-mail:kikaku@j.iwate-med.ac.jp
印　刷　河北印刷㈱　盛岡市本町通2 - 8 - 7
TEL 019-623-4256
E-mail:office@kahoku-ipm.jp

名誉理事長・名誉学長　大堀　勉先生の逝去について

学校法人岩手医科大学名誉理事長・岩手医科大学名誉学長の大堀　勉殿（前理事長）におかれましては、かねてより療養中のところ、平成24年６月７日㈭午後５時43分、本学附属病院にて逝去されました。享年87でした。

先生は、大正14年３月に福島県でお生まれになり、岩手医学専門学校で学生時代を過ごされた後、東京慈恵会医科大学での勤務を経て、昭和36年５月に母校である本学に任用されました。その後、本学泌尿器科学講座の初代教授として日々教育・研究・診療に奔走される一方、学内の重役を歴任され大学の発展にご尽力されました。そして昭和63年１月に第７代学長に就任、平成２年５月に第７代理事長に就任され、その弛みのないご努力と不撓不屈の精神により幾多の大事業を推進・成功させ、今日の本学の雄姿を築き上げました。

ここに生前の多大なるご功績を称え、哀悼の誠を捧げ、謹んでご冥福をお祈りいたします。

学校法人岩手医科大学葬の挙行について

日時　平成24年７月７日㈯　午後１時
場所　岩手県民会館

※誠に勝手ながら、香典・供花・供物の儀は固くご辞退申し上げます。

【略　歴】

昭和17年３月	福島県立会津中学校（旧制）卒業
昭和19年４月	岩手医学専門学校入学
昭和24年３月	岩手医学専門学校卒業
昭和24年４月	国立千葉病院において病院実地修練（昭和25年３月迄）
昭和25年10月	医籍登録（第132695号）
昭和25年12月	東京慈恵会医科大学高田外科教室副手嘱託
昭和27年２月	東京慈恵会医科大学泌尿器科学教室に転ず
昭和29年１月	東京慈恵会医科大学泌尿器科学教室助手任用
昭和34年６月	医学博士（東京慈恵会医科大学）
昭和35年２月	東京慈恵会医科大学泌尿器科学教室講師昇任（昭和36年４月30日迄）
昭和36年５月	岩手医科大学医学部皮膚科泌尿器科学講座助教授任用（昭和41年３月31日迄）
昭和41年４月	岩手医科大学医学部泌尿器科学講座教授昇任（平成５年３月31日迄）
昭和52年７月	岩手医科大学学生部長（昭和59年３月31日迄）
昭和54年４月	学校法人岩手医科大学評議員就任（平成24年２月22日迄）
昭和59年４月	岩手医科大学医学部附属病院長就任（昭和60年３月31日迄） 学校法人岩手医科大学理事（５号理事）就任（昭和63年１月28日迄）
昭和60年４月	岩手医科大学医学部長就任（昭和63年３月31日迄）
昭和62年６月	岩手医科大学学長職務代理（昭和63年１月28日迄）
昭和63年１月	岩手医科大学第７代学長（１号理事）就任（平成８年１月28日迄）
平成２年５月	学校法人岩手医科大学第７代理事長就任（平成24年２月22日迄）
平成５年４月	岩手医科大学名誉教授
平成８年１月	学校法人岩手医科大学理事（４号理事）就任（平成24年２月22日迄）
平成16年８月	岩手医科大学名誉学長
平成24年３月	学校法人岩手医科大学名誉理事長

【受章、表彰】

平成９年５月	岩手県勢功労者顕彰
平成12年４月	勲二等瑞宝章受章
平成12年11月	盛岡市市勢振興功労者表彰
平成12年12月	福島県会津坂下町名誉町民推戴
平成13年11月	福島県外在住功労者知事表彰